アミノアップ化学がお届けする“健康情報”

NEWS LETTER

2017 年 10 月 2 日
株式会社アミノアップ化学

シニア世代が知っておきたい感染症と免疫

～ 秋の行楽シーズンに気をつけたい「マダニ感染症」～

株式会社アミノアップ化学（北海道札幌市、代表取締役社長：藤井創）では、機能性食品素材の製造とともに、健康維持や改善、また病気予防との関係性に関する研究に長年努めて参りました。本ニュースレターでは、今話題の健康情報に加え、アミノアップ化学製品の最新研究結果や関連するエビデンスについてご紹介します。

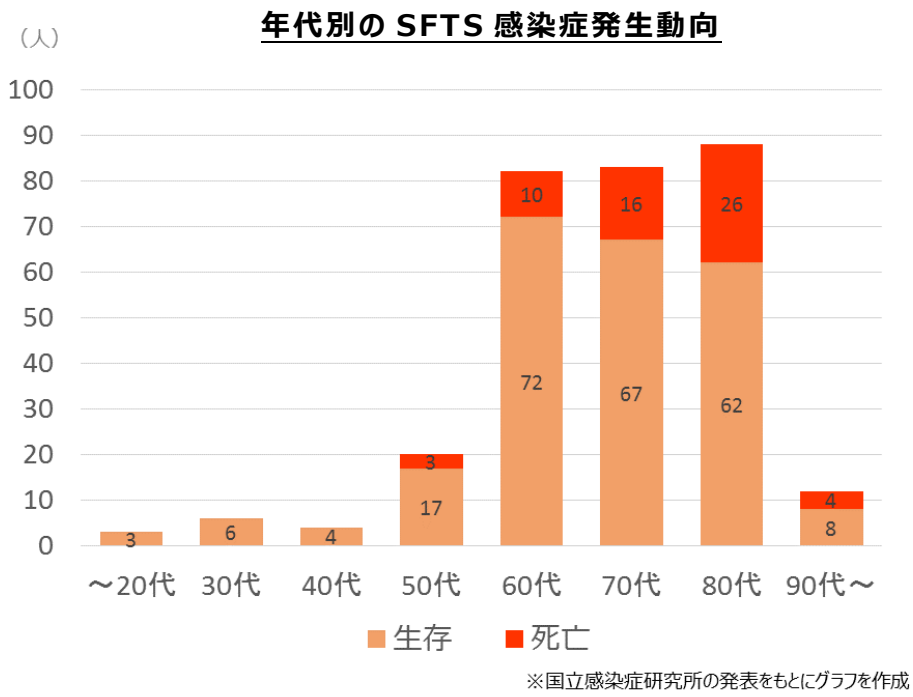
〈コンテンツ〉

１、感染者急増している「マダニ感染症」 秋の行楽シーズンは特に注意！
２、知っておきたい、感染症と免疫の関係
３、シニア世代の免疫に働きかける AHCC®の可能性

１、感染者急増している「マダニ感染症」 秋の行楽シーズンは特に注意！

■マダニに咬まれることで感染する SFTS

マダニは山や森林など野生生物が出没する環境や、民家の裏庭や畑など私たちの生活圏にも生息しています。このマダニに咬まれることで、様々な感染症にかかることがあるのをご存知でしょうか？マダニ由来の感染症のひとつで、ニュースでよく取り上げられているのが「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」です。SFTS の主な症状は発熱や消化器症状（下



注）死亡は感染症発生動向調査の届出時点の情報であり、届出後の死亡は報告されていない可能性があるため、自治体による発表情報とは異なる場合がある。

痢、嘔吐、腹痛等）で、有効な治療法は確立していません。

重症化すると死亡に至ることもあり、致命率は 20%に及びます[※1]。国立感染症研究所によると 2017 年の SFTS 発症報告数は 67 例（8 月 30 日時点）[※2]。調査を開始して以来、最多を記録。また、報告全体の約 90%が 60 歳以上と高齢者が多く、死亡に至っているのは 50 歳以上と、シニア世代は重症化のリスクがあると考えられます。

マダニの活動が活発な春～秋、とりわけ野外での活動が増える秋の行楽シーズンは警戒が必要です。

■「マダニ感染症」の予防策は？

何よりも、マダニに咬まれないことが重要です。屋外での活動時は、長袖、長ズボンを着用し肌の露出を少なくすること、また、ディートという成分を含んだ虫除け剤の使用（ただし、生後 6 ヶ月以下には使用不可）が有効です。万が一、咬まれてしまった時は、傷口から感染の恐れがあるため、無理に引き抜こうとせず、皮膚科などの医療機関で処置をしてもらうようにしましょう。

※１　厚生労働省、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
※２　国立感染症研究所、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）
https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/3143-sfts.html

２、知っておきたい感染症と免疫の関係

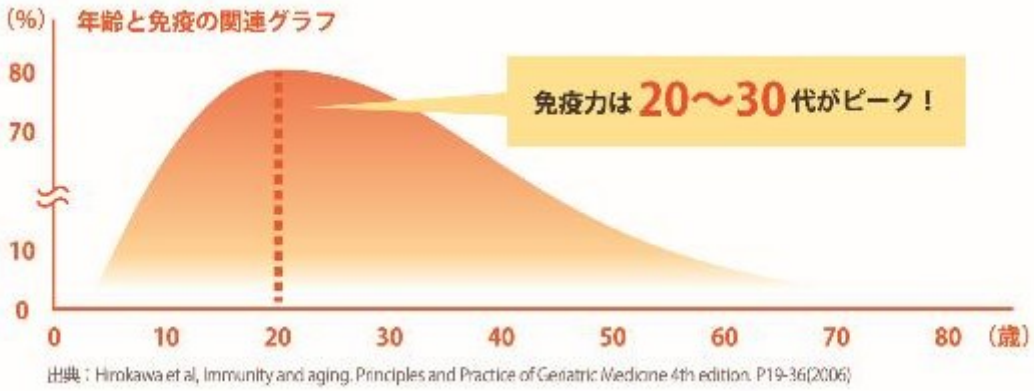
人間の身体には、元々、病気の原因となる病原体から身体を守る働きが備わっています。今回、取り上げた「マダニ感染症」だけでなく、さまざまな感染症対策において「免疫」は重要な役割を果たします。

■免疫とは？

「免疫」とは感染症などから免れるために私たちの身体に備わっている機能です。免疫の働きは大きく、「自然免疫」と「獲得免疫」に分類されます。「自然免疫」とは、生まれながらに持っている防御機能で、体内に入ってきたウイルスや細菌などの敵を攻撃すると同時に、敵の情報を「獲得免疫」に伝えます。「獲得免疫」は、受け取った情報をもとに、感染した細胞を殺したり、ウイルスを中和する抗体を作り攻撃します。

■シニア世代は免疫機能のピークが過ぎている

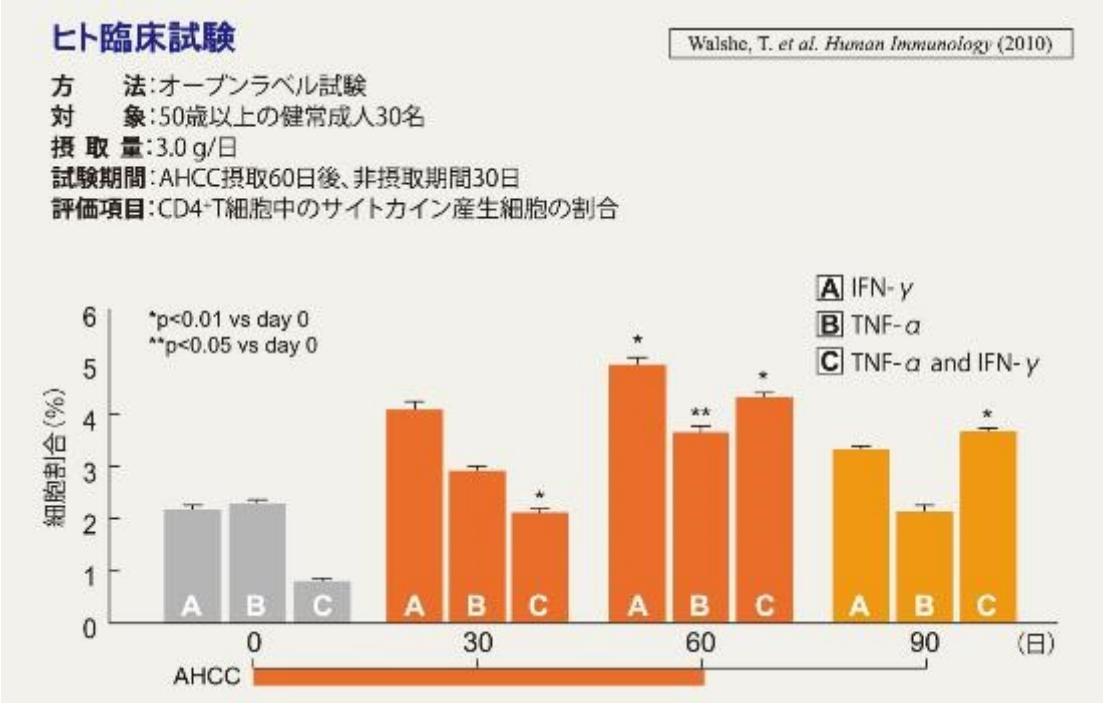
ウイルスや病原体から自分を守る免疫ですが、加齢、疲労、運動不足、睡眠不足、栄養不足、冷え、ストレスなどが原因で低下すると考えられています。また、免疫機能は 20 代から 30 代がピークで、年齢を重ねる毎に、低下することが報告されており、シニア世代ではいかに健康な免疫状態を保つかが重要になります。



３、シニア世代の免疫に働きかける AHCC®の可能性

■感染症に立ち向かう免疫をサポートする AHCC®

株式会社アミノアップ化学が製造する AHCC®は、免疫機能に働きかけることがわかってきています。免疫機能が低下しがちなシニア世代を対象とした臨床試験も行われています。試験では、50 歳以上の健常者 30 名を対象に、AHCC®を 1 日 3g、60 日間摂取してもらいました。その結果、血中のインターフェロン-γ（ガンマ）や TNF-α（アルファ）といった免疫指標が増えており（下図参照）、免疫細胞（T



細胞）が活性化していることが分かりました。このことから、AHCC®が感染症の原因となるウイルスや細菌に対する免疫反応を活性化することを示唆する結果が得られています※3。

さらに、AHCC®は感染症についての研究も盛んに行われています。マダニなどに媒介される「西ナイル熱」、「ジカ熱」、「ライム病」の他、院内感染のニュースでよく耳にする MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）、カンジダ症、インフルエンザといった感染症分野において、AHCC®と免疫に関する研究が実施されています。

※3 Walshe,T.et al. Human Immunology 71 (2010) 1187–1190

■マダニ媒介の STFS と抗体産生を促進する AHCC®
帝京大学 医真菌研究センター所長 安部茂教授のコメント

「マダニによる SFTS 感染症はブニヤウイルスの一種によるもので、治療薬はまだなく、高齢者での死亡例が多いことから十分な注意が必要です。高齢者では免疫能が低く表皮が薄くなることから、ダニにかまれた時に侵入するウイルス量も多い可能性があります。重症化する患者さんでは急性期に、ウイルスを中和する抗体価が低いことが報告されていますので、患者さんの抗体産生能力を高めることが大切だと思います。抗体産生能力を高めるという点においては、AHCC®とインフルエンザワクチンを用いた健常人の臨床試験で、AHCC®を摂取することで抗体の産生能力が高まったという結果が報告されています※3。また、これまでの研究から、AHCC®の感染症に対する効果も期待されています。AHCC®の摂取が、感染症の重篤化や発症の防止にも役立つかもしれません」

■AHCC®（Active Hexose Correlated Compound：活性化糖類関連化合物）とは

AHCC®は、キノコの菌糸体を長期間培養して得られた抽出物で、アシル化α1,4-グルカンを豊富に含むのが特徴です。いわゆる健康食品として、1989 年の発売以来、世界中の医療機関や大学で研究されており、信頼できる製品として愛用されています。日本のみならずヨーロッパ、アメリカ、アジア、オセアニアなど広範囲で販売されており、現在では統合医療の一手段としても取り入れられています。

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社アミノアップ化学　営業部　広報担当：藤堂、岩松、三浦
TEL：011-889-2555　FAX：011-889-2375　MAIL：au_pr@aminoup.co.jp